

## 第6回超領域社会工学研究部会報告

第6回目の研究発表会を平成29年7月29日に目黒区立自由が丘住区会議室にて開催致しました。

今回は、真夏日の暑さにもめげずに、当研究部会の3名の精鋭による発表がありました。発表テーマは、次の通りです。

長井壽満 「河童」

カッパといえば、妖怪やお寿司、レインコートと多種にわたりますが、やはり有名なのは柳田国男の『遠野物語』でしょう。発表では、柳田の河童観に触れつつ、妖怪思想の変化について江戸時代の文献や現代の河童観についての考察がありました。発表を聴き河童に“尻子玉を抜かれぬよう、皆さん無意識にお尻を押さえていました。また、現代の河童キャラの紹介もあり、” かつぱ “つな議論が行われました。

増子保志 「戦場のAKBーアイドル達の戦争協力ー」

戦時中、軍部制作の兵士向け慰問雑誌『陣中倶楽部』『戦線文庫』が発行されていました。その中には、原節子や李香蘭など当時のトップスター達のグラビアや各種の娯楽コンテンツが掲載され、戦場の兵隊さんの心の拠りどころとなっていました。戦況の悪化とともに誌面の内容は変化しましたが、物資欠乏にも関わらず終戦間際まで発行され続けました。戦後、“お国のため”を叫んでいたアイドル達は、「民主主義」を主張するアイドルに変化しました。まさにアイドルは時代を映す鏡と言えるでしょう。

草野純子 「生体電流の調整についての仮説考察」

人体には生体電流が流れており、細胞同士の新陳代謝が活発に行われるため元気になり、病気への自己防御力が増加します。身体の機能は生体電流でコントロールされており、生体電流の衰えが身体に悪影響を及ぼすようです。また、磁場の存在に着目され人体に磁場を加えると磁気共鳴が生じてエネルギー変換が起きることから、磁場は人体に細胞レベルでの変化をもたらすであろうという仮説の紹介がありました。

各発表は当研究会の特色ともいえる、分野を超越したものであり、各発表者による丁寧な説明で各自、新しい分野への理解を深めることができました。また、和室での発表会となり、リラックスした雰囲気の中、詫び寂びの心を感じながら

各自の発表に静かに目を閉じて聞き入ることばかりでした。

懇親会は研究会の長老のご学友が経営している焼き鳥「鳥せん」で行いました。一皿5本の焼き鳥を3人で食べようなどという「一杯のかけそば」を想起させるような、経済的な発想をする方もいて和気あいあいとした楽しい懇親会でした。

今後も当研究部会の方針である会員ファーストの理念に基づいて分野を超えた発表会を行う所存です。

(研究部会長 増子保志)



“和”のテイストでの発表